

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 表 現：外国語表現の能力
 理 解：外国語理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)
ア 聞くこと (ウ)	1	(1) Whereを用いた疑問文に対して正しく応答することができる。		理 解	65.0	44.2
		(2) How long ～?に対して正しく応答することができる。		理 解	65.0	75.4
		(3) How ～?に対して正しく応答することができる。		理 解	65.0	57.3
ア 聞くこと (ア) (イ)	2	(1) 絵を参考にまぎらわしい数字を聞き分けることができる。		理 解	70.0	80.1
		(2) 絵を参考に人の行為や場所を聞き分けることができる。		理 解	80.0	90.2
		(3) 絵を参考に複数の数字を聞き取り、状況に応じた答えを聞き分けることができる。	◇	理 解	50.0	94.7
ア 聞くこと (オ)	3	まとまりのある英文を聞いて概要を理解し、適切でない文を指摘することができる。	◇	理 解	60.0	87.2
エ 書くこと (イ)	4	(1) 適切なbe動詞を書くことができる。		言・文	50.0	62.8
		(2) 三人称・単数・現在形の文を書くことができる。		言・文	50.0	38.7
		(3) 現在進行形の文を書くことができる。		言・文	75.0	72.5
		(4) 一般動詞の過去形の否定文を書くことができる。		言・文	50.0	37.6
		(5) 三人称・単数・現在形の疑問文を書くことができる。		言・文	50.0	39.7
ウ 読むこと (イ) (ウ)	5	(1) まとまりのある英文を読んで、代名詞のさす内容を指摘することができる。		理 解	80.0	88.5
		(2) まとまりのある英文を読んで、内容についての質問に合う応答文を指摘することができる。	◇	理 解	60.0	79.3
		(3) ① まとまりのある英文を読んで、要約文に合う英語を指摘することができる。	◇	理 解	50.0	58.7
		② まとまりのある英文を読んで、要約文に合う英語を指摘することができる。	◇	理 解	60.0	75.3
ウ 読むこと (イ) (ウ)	6	(1) 与えられた題材から必要な情報を読み取るとともに、対話を読んで、文脈や要点を把握することができる。	◇	理 解	60.0	66.7
		(2) 与えられた題材から必要な情報を読み取るとともに、対話を読んで、文脈や要点を把握することができる。	◇	理 解	50.0	51.5
エ 書くこと (ア) (イ)	7	(1) 示された英語を用いて、対話に合うWhat＋名詞の語順の疑問文を書くことができる。		表 現	60.0	40.9
		(2) 示された英語を用いて、対話に合うWhereを用いた過去進行形の疑問文を書くことができる。		表 現	60.0	75.4
		(3) 示された英語を用いて、対話に合う命令文を書くことができる。		表 現	60.0	55.1
ウ 読むこと (イ) (ウ) (エ)	8	(1) ① 対話に合う英文を指摘することができる。	◇	理 解	50.0	58.4
		② 対話に合う英文を指摘することができる。	◇	理 解	50.0	56.1
		(2) 文と文の順序や相互の関連を考え、英文を構成することができる。	◇	理 解	40.0	64.0
エ 書くこと (ア) (イ)	9	(1) 対話に合うWhat timeを用いた疑問文を書くことができる。	◇	表 現	55.0	68.3
		(2) 対話に合う応答文を書くことができる。	◇	表 現	55.0	38.6
		(3) 対話に合うHow manyを用いた疑問文を書くことができる。	◇	表 現	55.0	52.9
エ 書くこと (ア) (イ) (エ)	10	条件に従って、まとまりのある英文を考え、書くことができる。	◇	表 現	30.0	27.6

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東青管内			西北管内					
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	Whereを用いた疑問文への応答	65.0	47.9	48.6	36.3	43.4	37.7	50.2	45.3	
	(2)	How long ～？ に対するの応答	65.0	77.4	78.0	67.1	76.7	74.5	79.7	77.3	
	(3)	How ～？ に対するの応答	65.0	61.3	62.1	48.6	54.5	49.7	56.6	58.4	
2	(1)	まぎらわしい数字の聞き分け	70.0	82.7	83.3	74.0	82.0	81.1	78.6	85.0	
	(2)	人の行為や場所の聞き分け	80.0	90.6	90.9	86.3	90.9	90.8	90.7	91.0	
	(3)	状況に応じた応答	50.0	95.3	95.6	91.1	93.9	91.6	97.9	94.0	
3		まとまりのある英文の概要理解	60.0	87.5	87.7	83.6	85.6	85.5	85.1	86.1	
4	(1)	適切なbe動詞の記入	50.0	70.9	72.2	49.3	59.5	57.6	67.6	56.7	
	(2)	三人称・単数・現在形の動詞の記入	50.0	44.2	44.5	39.0	41.8	32.6	56.6	42.7	
	(3)	現在進行形の文の適切なbe動詞の記入	75.0	74.2	74.2	73.3	68.7	66.0	73.0	68.9	
	(4)	一般動詞・過去形の否定文の語句記入	50.0	41.1	41.6	32.9	38.3	30.3	52.7	38.0	
	(5)	三人称・単数・現在形の語句記入	50.0	47.0	47.6	35.6	41.3	39.9	49.1	38.0	
5	(1)	まとまりのある英文の詳細理解	80.0	89.7	89.7	89.7	86.8	85.5	89.7	86.5	
	(2)	まとまりのある英文の詳細理解	60.0	82.1	82.3	80.1	77.3	73.5	82.9	77.9	
	(3)	①	まとまりのある英文の要点理解	50.0	61.3	62.2	46.6	57.8	58.2	61.6	55.2
		②	まとまりのある英文の要点理解	60.0	79.0	79.3	74.0	77.3	77.0	80.4	75.8
6	(1)	対話文を読んだの詳細（内容）把握	60.0	68.5	68.4	68.5	67.6	66.2	68.3	68.7	
	(2)	対話文を読んだの詳細（内容）把握	50.0	55.1	55.7	44.5	49.8	48.3	54.8	48.5	
7	(1)	対話に合うWhat＋名詞の語順の文の完成	60.0	43.5	43.6	43.2	46.6	39.3	54.1	49.8	
	(2)	対話に合うWhereを用いた過去進行形の文の完成	60.0	83.0	83.3	78.8	72.3	71.1	72.2	73.6	
	(3)	対話に合う命令文の完成	60.0	56.9	57.6	45.2	43.1	40.1	51.6	41.2	
8	(1)	①	場面に合う適切な英文の選択	50.0	60.4	60.6	56.2	54.3	53.8	55.5	54.1
		②	場面に合う適切な英文の選択	50.0	57.9	58.0	56.2	55.6	53.6	57.7	56.4
	(2)	場面に合った対話の流れの理解	40.0	70.5	70.9	63.7	65.0	65.0	65.8	64.6	
9	(1)	場面に合うWhat timeを用いた疑問文の英作文	55.0	71.0	71.6	61.6	68.1	66.4	74.0	66.3	
	(2)	場面に合うWhenを用いた疑問文に対する応答文の英作文	55.0	43.6	44.6	28.1	36.7	34.6	40.9	36.3	
	(3)	場面に合うHow manyを用いた疑問文の英作文	55.0	59.9	60.5	48.6	51.9	46.0	59.4	53.6	
10		条件に合うまとまりのある英作文	30.0	34.2	34.5	29.5	18.4	18.1	27.4	13.3	
教科全体（全小問の総正答数÷全小問の総解答数）			57.3	65.6	66.0	58.3	60.9	58.4	65.5	60.8	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
44.4	44.5	49.8	43.5	38.1	46.3	46.8	41.6	47.8	39.6	40.2	37.1	40.7	39.5	45.1	44.2
75.0	75.3	83.3	70.6	67.9	79.3	79.0	78.3	79.8	73.9	75.4	68.2	70.7	71.1	69.2	75.4
54.7	56.2	56.7	48.1	52.1	57.6	63.0	60.4	53.1	56.2	56.8	53.8	56.9	56.5	58.4	57.3
79.1	79.3	83.9	79.0	72.8	78.6	78.3	84.2	76.7	81.3	82.5	76.5	78.3	77.6	80.8	80.1
90.2	90.9	90.2	89.7	87.5	88.8	85.9	93.5	88.8	91.3	91.7	89.4	90.1	89.5	92.5	90.2
94.4	95.1	95.1	92.7	91.7	95.3	95.1	94.1	95.9	92.8	93.6	89.4	94.5	94.7	93.8	94.7
85.2	85.8	86.6	82.4	83.4	89.1	87.3	93.3	88.6	87.3	87.2	87.9	88.1	88.2	88.1	87.2
65.3	70.5	59.3	52.3	61.1	59.7	64.0	63.9	55.2	56.8	61.5	37.9	58.1	61.9	44.1	62.8
34.9	35.0	52.8	18.3	29.8	45.1	47.5	51.3	41.3	42.5	44.7	33.3	29.1	29.1	29.1	38.7
70.6	74.0	68.2	59.9	68.3	71.5	75.3	74.8	67.9	75.0	77.1	66.7	74.2	75.4	70.0	72.5
32.2	33.2	44.9	24.0	20.8	38.2	42.1	43.1	33.8	47.4	52.3	28.0	35.0	35.7	32.6	37.6
37.7	41.0	33.8	30.5	34.0	41.9	48.7	39.0	38.7	35.7	37.4	28.8	32.8	35.0	24.7	39.7
86.2	88.1	85.6	77.9	86.0	90.4	89.6	91.8	90.4	88.6	89.8	83.3	88.8	89.1	87.7	88.5
77.1	78.8	77.4	67.6	78.1	80.5	82.6	85.3	77.3	72.1	74.4	62.9	80.2	81.1	76.9	79.3
58.9	60.8	60.0	55.3	52.1	56.4	56.3	64.2	53.4	54.4	55.5	50.0	59.1	59.8	56.8	58.7
73.0	75.1	75.1	66.8	67.2	74.3	76.3	75.4	72.6	72.9	74.2	67.4	73.9	73.4	75.6	75.3
62.7	63.1	65.9	57.6	61.9	66.6	69.6	71.6	62.8	64.9	65.4	62.9	68.2	68.4	67.2	66.7
46.0	49.8	48.5	37.8	33.6	54.7	56.5	58.4	52.1	49.5	51.3	42.4	51.4	52.6	47.1	51.5
39.3	40.6	44.6	34.4	32.5	40.4	46.3	49.0	33.3	55.7	58.1	46.2	33.4	32.5	36.6	40.9
76.7	78.8	77.7	71.8	70.6	71.7	75.7	76.2	67.4	70.8	72.6	63.6	72.2	73.4	68.1	75.4
44.6	48.0	42.3	42.4	34.0	60.7	65.4	68.3	54.7	64.5	68.0	50.0	61.3	61.9	59.2	55.1
55.7	59.3	55.1	46.6	48.7	59.0	65.6	58.9	54.8	60.8	63.5	50.0	59.5	61.6	51.8	58.4
52.8	55.7	55.4	49.2	40.0	57.4	62.4	59.8	53.4	54.4	56.0	47.7	56.7	57.6	53.5	56.1
65.1	68.6	63.6	60.3	55.5	63.6	64.3	70.1	60.7	53.5	55.3	46.2	59.3	60.0	56.8	64.0
67.6	71.0	69.5	59.2	57.7	67.1	71.7	73.3	61.8	69.9	72.6	59.1	66.6	67.1	64.7	68.3
33.9	34.7	43.6	27.1	25.7	30.8	33.4	35.5	27.3	46.2	50.8	28.0	41.7	43.2	36.1	38.6
48.5	53.1	44.6	38.9	40.8	52.5	56.9	54.8	48.7	55.0	57.7	43.9	49.8	51.2	44.5	52.9
22.1	27.2	13.4	14.9	15.8	27.4	28.3	29.9	25.8	32.1	35.7	17.4	29.0	28.4	31.1	27.6
59.8	61.9	61.7	53.5	53.8	62.3	64.8	65.8	59.4	62.3	64.3	54.2	60.7	61.3	58.6	62.1

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
聞くこと	7	1(2)、2(1)、 2(2)、2(3)、3	1(1)	75.6	65.0
読むこと	9	5(1)、5(2)、 5(3)②	6(2)	66.5	55.6
書くこと	12	4(3)、7(2)、	4(2)、4(4)、4(5)、 7(1)、9(2)、10	50.8	54.2

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
外国語表現 の能力	7	7(2)	7(1)、9(2)、 10	51.3	53.6
外国語理解 の能力	16	1(2)、2(1)、 2(2)、2(3)、 3、5(1)、 5(2)、5(3)②	1(1)、6(2)	70.5	59.7
言語や文化 についての 知識・理解	5	4(3)	4(2)、4(4)、 4(5)	50.2	55.0

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率 (%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
1	(1) 44.2	65.0	エ(31.0)、ア(12.0)、ウ(8.0)
	(2) 38.7	50.0	study(19.0)、is(12.0)、studys(7.0)、was(4.0)、 studying(2.0)、studied(2.0)
4	(4) 37.6	50.0	was(34.0)、am(10.0)、do(7.0)
	(5) 39.7	50.0	Are(11.0)、Is(8.0)、Were(7.0)、What(5.0)、Do(5.0)、 Did(2.0)
7	(1) 40.9	60.0	What do you play sport?(54.3) Do you play what sport?(4.8)
9	(2) 38.6	55.0	動詞の間違い(33.9)、「土曜日に」を表す適切な前置詞の 間違い(11.9)、文構造の理解不足・単語の羅列(7.8)、 無答(7.8)
10	27.6	30.0	15語以上で書いているが、間違いがあるもの(42.4)、 無答(15.0)、14語以内で書いているもの(14.8)

- 誤答の原因として、1では、エと答えた生徒が約3割いたことから、質問にあるpresentに影響を受けたものと考えられる。また、質問文のWhereの聞き取りと意味の解釈はできているものの、質問内容を理解していないことによるものと考えられる。
- 誤答の原因として、[4](2)では、studyと書く例が多いことから、3人称単数のs(es)の定着が十分ではないことが考えられる。
- 4では、was、am、(5)ではAre、Is、Wereの誤答が多く、一般動詞とbe動詞の区別に関する知識・理解が不十分であることが考えられる。
- 誤答の原因として、[7](1)では、What+名詞で始まる疑問文の語順の理解及び定着が十分でないと考えられる。
- 誤答の原因として、[9](2)では、曜日の前に置く前置詞の知識・理解及び、疑問詞で始まる疑問文への適切な応答文の文構造の知識・理解が不十分であることが考えられる。
- 誤答例として、[10]では、まとまりのある英文を書こうとする意欲は、無答率の減少から向上していると考えられるものの、単語の羅列が散見される。また、提案の表現(Let's等)や名詞の前に適切な冠詞を置くことに関する知識・理解が不十分であることが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、「書くこと」の向上が挙げられる。特に、「内容的にまとまりのある一貫した英文を書くこと」については、昨年度と同様に十分とは言えない。

今後の指導においては、家庭や学校などの日常生活の中で起こったことや、旅行や行事など、自分の考えや気持ちを書いて表現することが比較的容易であると考えられる題材を取り上げ、実際に英文を書いてみることで、文構造の理解と定着につなげることが大切である。その際のポイントは、必ず2文、そして、徐々にそれ以上の文を書くように段階を上げていくことが考えられる。一文一文を正しく書くだけでなく、文と文の順序や相互の関係にも注意を払い、全体として内容に一貫性のある英文を書かせるようにすることが大切である。その対応として、一貫性があるかどうかを再考させるなどのフィードバックを施す必要があると考えられる。さらに、それを書き直させることで学習効果が上がると期待される。これらの活動を英文日記のように日常的な活動として位置付け、必要に応じて辞書を活用させながら継続的に行うようにすることが大切である。

指導例

内容的にまとまりのある一貫した英文を書く力を高める指導 ～単元名「職場体験学習のレポートを書いてみよう」～

【指導の流れ】

1 単元の目標を確認させ、本単元の学習内容や活動に見通しをもたせる。[1時間目]



この単元では「職場体験学習」の思い出が読み手に伝わるようにレポートを書くことが目標です。

ゴールは、「職場体験学習についてのレポートを読み手に伝わるように英文で正しく書くことができる。」です。体験した職業やその内容、学んだこと、感想など、読み手に自分の体験したことや感じたことが伝わるように書いてみましょう。

学習活動

教科書のモデル文や指導者が作成したモデル文等を読み、気付いたことを話し合う。



「誰が」「何を
した」「どこで」「いつ」などの事実と感想が書かれているね。



会話文が書かれていると、その時の様子がよく分かるね。



First や After that、Then を使っていると、時間の流れがはっきりするんだね。

ポイント

単元の目標を示すことにより、単元末の表現活動に必要な語彙や基本文に気付かせるとともに、単元の学習や言語活動への目的と必然性をもたせる。

2 言語活動を通して、レポート作成に必要な語彙や新出の文法事項を習得させる。

[2時間目～5時間目]

学習活動①

職場体験学習について書かれた教科書の本文を読む。

学習活動②

職場体験学習で、自分が印象に残った場面を表している写真を選び、レポートにどんな事実を書くのかをメモする。

学習活動③

新出文型の意味・構造を知り、自己表現の中で使用できるように練習をする。

学習活動④

新出文型を用いて、体験場所へ行った目的や事実などを書く。

【メモの例】

I went to a confectionery to work with my friends for two days.
On the first day, we cleaned the room in the morning.

ポイント

語彙や新出表現の定着は、自分の考えを表現する幅を一層広げるための大切な要素である。そのための練習を段階を踏んで丁寧に行うことはもちろん、その際には、用いる例文の内容を十分に考慮し、職場体験学習について述べた例文を少しずつ取り入れ、6時間目に行う活動につなげていく。また、単なるドリル練習で終わらないよう、各時間の最後に新出表現を用いて自分の体験したことを表す英文を作成させる。

3 レポートの作成、推敲に取り組ませる。[6時間目]

学習活動①

教科書本文や自分でメモしたことを参考に、同じ職場に行ったグループに分かれて、各自がレポートを作成する。

学習活動②

グループ内でメンバーのレポートを読む。読む際のポイントとして、職場体験学習に、いつ、誰と、どこへ、何をしに行ったのか、そしてその感想が書かれているところを読み取る。その後、読んだ感想やアドバイスを聞き合う。

【評価規準例 外国語表現の能力】

・時間の流れを表す語句や表現、to不定詞などの知識を活用して、レポートを正しく書くことができる。

学習活動③

グループでの交流を生かし、加筆及び修正をする。

※指導者は授業の終わりにワークシートを集め、次時までには朱筆を入れる。つづりや文法の誤りを指摘する。

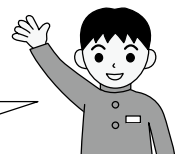


いつ、誰と、どこへ、何をしに行ったのかについて、もっと詳しく知りたいと思ったところや、あまり理解できなかった文についても、教えてあげるといいね。



クッキーを小さな袋に詰めるときに、大変だったことも入れたらどうかな？

お客さんに大きい声で挨拶ができたことを書いた英文の後に、会話文を入れるともっと様子が伝わるかもしれないよ。



ポイント

グループ活動を通して、学習者同士の相互確認という活動を取り入れる。自分のレポートをまず自分で推敲し、次に学習者同士で改善した方がよいと思われる点についてアイデアを出し合い、最後に指導者のチェックを受けるという3段階の推敲を行うことで、正しい文を書いたり、より適切な形で文と文をつなげたりすることができるようになる。このような学習者同士の相互確認という活動を取り入れることにより、協力や気付きなどが生まれ、思考力・判断力を養う上で大切なステップとなる。

4 レポートを掲示物に仕上げさせ、お互いに読み合わせる。[7時間目]

学習活動①

指導者からの助言や朱筆を参考にして、加筆、修正の後、清書する。

学習活動②

自分とは別の職場に行ったグループのレポートを読み、読んだ感想を記入する。

学習活動③

本単元の振り返りをする。



別の職場に行ったグループのレポートを読んで、感想を記入しよう。

感想を書き終えたら、振り返りをします。
今回のレポートを作成してみて良かった点や、次回に生かしたい点をまとめよう。

to不定詞を使うと目的が表せるのが分かったし、単語の順序にも気を付けて書くことができました。



友達の文をたくさん読めたし、内容も分かったよ。それに、自分のレポートをみんなに読んでもらって、たくさんコメントを書いてもらえて嬉しかった。特に、「体験したこととその感想がよく伝わった」や、「会話文があって分かりやすい」というコメントを多くもらった。この次もまた、たくさん文を書いてみたいな。



【レポート例】

October 14

I went to a confectionery to work with my friends for two days.

On the first day, we cleaned the room in the morning. After that, we packed some cookies into small bags. It is difficult for me to tie a ribbon in these bags.

On the second day, we practiced greetings after cleaning the room. Then we helped to sell cakes. At first, I couldn't greet customers in a loud voice. But I did it well in the afternoon. When I said "Thank you." to a customer in a loud voice, she said "Thank you, and good luck!" to me. I was very happy. I really enjoyed my day.

「活用」に関する問題についての課題としては、聞き取ったり読み取ったりしたことを、これまでの知識や経験を生かして自分の考えや気持ちとして表現する力、つまり、話したり書いたりして相手に伝える力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、複数の技能を統合させて実際のコミュニケーションを行う言語活動を一層重視し、授業で積極的に英語を使おうとする態度を育成すること、また、英語を用いたコミュニケーションを図る体験を積み重ねることが必要である。

今後、授業を実際のコミュニケーションの場面とする観点から、中学校においても授業を英語で行うことが基本となるため、生徒が英語に触れる機会を増やす必要がある。例えば、基礎・基本の定着のための帯活動においては、常に決まった流れで行うことが一般的であることから、教師と生徒ともにすべて英語で活動を進めることが期待される。また、導入における教師のデモンストレーション後の内容理解を、英語によるインタラクションで行うことも必要である。

指導例

技能統合型の活動を展開する発展的な指導例
 ～単元名「私の宝物」～My Treasure～

【指導の流れ】

1 スピーチ原稿を作成した後に、グループ内で発表会をし、内容について質問したり答えたりさせる。（話すこと、聞くこと）



各グループのリーダーは、進行役を務めましょう。発表後には、スピーチの内容についてQ&Aを行いましょう。

学習活動①

リーダーの進行に従って、グループで発表会を行う。



Let's start with St.A. After the speech, please ask any questions. Listen carefully.

Hello, everyone. Today I'm going to show you my treasure. It is this ○○.



Thank you, St.A. Now, do you have any comments and questions?



Do you live with your grandfather?

Yes, I do.



Where did your grandfather buy it?

He bought it



Next speaker is B.

Hello, everyone.

ポイント

- ・進行役を立てて英語で進めていくことにより、発表会らしい雰囲気をつくる。また、英語で言語活動を行うことに慣れさせていく。
- ・発表後のQ&Aは、はじめはYes/Noで答える質問で始め、次第にwh-やhowを使った質問になるように助言する。どの生徒でもYes/Noで答える質問はできるようにさせる。

学習活動② 4人全員が終わったら（あるいは一人終わるごとに）それぞれのスピーチについて、英語で相互評価をする。

[ワークシート例]

3段階による評価シート	A	B	C	D
1 伝えたい内容が分かる	◎			
2 正しい発音	◎			
3 声の大きさ、明瞭さ	◎			
4 アイ・コンタクト	◎			

[Aさんに対するコメント・評価]

B : A spoke with big voice and very clearly.

C : A's pronunciation was good, and his speech was great!

D : A's speech was easy to understand.

ポイント

評価シートを基に英語で話し合うが、評価（態度・内容・質問・回答）のフォーマットやワードバンク（単語やフレーズの例）をカードにして黒板に掲示させる。次第に、語彙や文の数を増やすようにさせる。

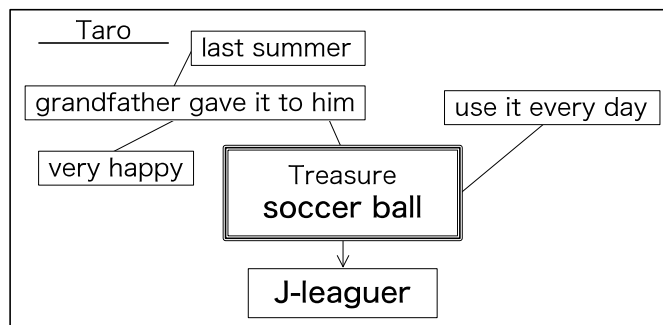
2 読み取った内容をグループ内でメンバーに伝えさせる。（読むこと、話すこと、聞くこと）

学習活動① 他のグループのスピーチ原稿を読み取り、その内容について、グループのメンバーに伝える。



メモにはキーワードで書きましょう。

[メモ例]

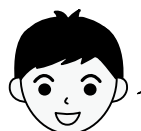


ポイント

- ・前時の発表会を参考に、各グループで、代表のスピーチ原稿を選ばせておく。
- ・事前に黒板や掲示板に、選んだスピーチ原稿を貼らせておく。
- ・事前にどのグループのスピーチ原稿を読み取りに行くか、決めさせておいてもよい。



1st student of each group, ready? You have 2 minutes!
Go and read a speech on the wall!
Time is up. Go back to your own group and tell members about the speech.



I read the Taro's speech of group B. His treasure is "a soccer ball". His grandfather gave him the ball last summer. Then he was very happy. He uses it every day to be a J-leaguer.

学習活動②

メンバーはワークシートにメモを取りながら聞く。

この学習活動①②を4回繰り返して、4人グループの全員が他のグループのスピーチ原稿を読み取りに行くようにする。



内容を伝える生徒は、2回話すこと。聞く生徒は、簡単にメモすること。
メモは日本語でも英語でも構いません。

3 聞き取った内容からまとまりのある英文を書かせる。(読むこと、書くこと)

学習活動

各自メモしたワークシートから一つのスピーチを選び、まとまりのある英文を作成する。



自分の思いを最後に加えるといいね。

僕はBグループのTaroのスピーチについて書くよ。



[メモ] Taroのスピーチ

- ・ サッカーボール
- ・ おじいちゃん
- ・ 去年の夏
- ・ うれしかった
- ・ 毎日練習
- ・ Jリーガーになる

⇒

[英文]

Taro's treasure is a soccer ball.
His grandfather gave him last summer.
He was happy when he got it.
He uses it every day.
He wants to be a J-leaguer in the future.
I hope his dream will come true.

キ まとめ

内容・領域についての学習状況は、「聞くこと」及び「読むこと」の領域においては、概ね良好である。しかし、「書くこと」の領域において、「内容的にまとまりのある一貫した英文を書くこと」については、正答率の上昇、無答率の減少等、指導の一定の成果は表れているものの、十分とは言えない。「活用」に関する問題についての状況も、同様の課題である。

今後は、「書くこと」の指導においては、4技能を総合的にバランスよく育成する指導を行うようにしたい。そのためには、単元をとおして生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを考え、CAN-DOリストの形での学習到達目標を明確に設定し、その達成に向けて単元を構成することが大切である。単元の終末には、面接、エッセー、スピーチ等でのパフォーマンス評価を実施し、生徒の学習状況を把握し指導改善につなげるようにしたい。

その中で言語活動においては、情報を伝え合う必然性や相手意識のある活動にすることが大切である。また、教科書を素材にして、実際のコミュニケーションの場面を設定することも大切である。明確な目標のないまま、単に基本文等を暗記し、それをそのまま再生するだけの活動は、基本文定着の一つの方法ではあるが、実際のコミュニケーションとは言えない。

今後、「授業は英語で行うことを基本とする」ことが求められるが、その基本は、「生徒が英語に触れる機会を充実する」及び「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」ことである。生徒が実際に言語を使用して互いに考えや気持ちを伝え合うなど、思考・判断・表現する活動のある授業を行うようにしたい。